

第2回裾野市総合計画審議会 議事要旨

(開催概要)

1. 日時:令和元年10月25日(金)13:00~14:30
2. 会場:裾野市役所4階401会議室
3. 出席者

<審議委員11名>※岩瀬委員欠席

西野勝明委員、藤井敬宏委員、山本睦委員、八木健二委員、杉山はま子委員、望月康男委員、一之瀬徳博委員、市川加代子委員、小川孝委員、出口謙一郎委員、望月宏明委員

<関係部局長等11名>

芹澤行政経営監、湯山総務部長、鈴木環境市民部長、小林健康福祉部長、影嶋建設部長、杉山教育部長、永田議会事務局長、水口市長戦略監、石井子育て支援監、細井水道事業管理監、高梨監査委員事務局長

<事務局7名(企画部企画政策課)>

西川企画部長、加藤課長、坂田課長代理、渡瀬主幹、長田係長、勝間田主席主査、川上主任

(議事次第)

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - (1) 前回審議会の意見対応について
 - (2) 第5次裾野市総合計画基本構想骨子について
4. その他
5. 閉会

(配付資料)

- 資料1:第1回裾野市総合計画審議会意見対応方針
- 資料2:裾野市の外国人人口データ
- 資料3:デジタル裾野研究会概要
- 資料4:基本構想骨子案
- 参考資料:計画策定スケジュール

(概要)

○ 開会

(事務局)

- ・ 本日はお忙しい中、また、お足元の悪い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます

います。

- ・ 定刻より少し早いですが、全員お揃いになりましたので、ただいまから、第2回裾野市総合計画審議会を開会いたします。
- ・ 私は本日の司会進行を務めます、企画政策課の坂田と申します。よろしくお願いいたします。
- ・ 本日は、裾野青年会議所の岩瀬委員が御都合により欠席となっております。
- ・ さて、委員の皆様にはあらかじめ本日の会議資料を送付させていただいておりますが、お持ちでない方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。
- ・ それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。
 - 次第、座席表、名簿
 - 資料1 第1回裾野市総合計画審議会意見対応方針
 - 資料2 裾野市の外国人人口データ
 - 資料3 デジタル裾野研究会概要
 - 資料4 基本構想骨子案
 - 参考資料 計画策定スケジュール
- ・ お手元に資料はお揃いでしょうか？
- ・ お揃いで無いようでしたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか？
- ・ それでは、早速、次第に沿って会議を進行してまいります。
- ・ 次第の2、会長挨拶。八木会長、よろしくお願いいたします。

○ 会長挨拶

- ・ 皆さん、こんにちは。
- ・ 本日は、足元の悪い中、また、お忙しい中、第2回裾野市総合計画審議会にお集まりいただきありがとうございます。
- ・ 第1回目の審議会が7月30日ということで、それからほぼ3ヶ月が経過しております。
- ・ さて、本日の審議会では、既に皆様にお知らせしておりますとおり、2つの項目について、議論をしたいと考えております。
- ・ 1つ目は、前回の審議会で各委員から出された意見への対応方針について、でございます。2つ目は、第5次裾野市総合計画の基本構想骨子について、でございます。
- ・ 特に、基本構想の骨子については、裾野市のまちの将来像を謳ったものになります。まちの将来像の実現のために、どのような方向性でまちづくりを行っていくのか、その骨組みを形成する大事な議論となります。
- ・ 1時間半という限られた時間ではございますが、皆様の忌憚のない御意見をよろしくお願いいたします。

○ 議事

(事務局)

- ・ 八木会長、ありがとうございました。
- ・ それでは、本日の議事に入ります。以後の進行は、裾野市総合計画審議会条例第5条

第 2 項の規定により、八木会長にお願いしたいと思います。八木会長、よろしくお願いいたします。

(八木会長)

- ・ それでは、しばらくの間、議事進行を務めさせていただきます。円滑な進行に御協力をお願いいたします。
- ・ それでは、議事(1)「前回審議会の意見対応」について、事務局から説明をお願いします。

(1) 前回審議会の意見対応について

(事務局)

- ・ 企画政策課長の加藤です。私から前回の審議会で委員の皆様から意見のあったことに対しまして、市の対応方針を御説明します。資料 1 を御覧ください。
- ・ まず、1 番の西野委員からはロジックモデルの組み方には注意を要すること、EBPM は職員の負担が増える恐れがあるので、慎重に行った方が良いという御意見をいただきました。
- ・ ロジックモデルにつきましては、それぞれのブロック間の整合性を図り、妥当性のある指標の設定に活かしたいと考えておりますが、新たな指標の設定につきましては、今後、審議会の場でも議論したいと考えております。
- ・ また、EBPM につきましては、極力、職員の負担にならないよう、状況を見ながら進めていきたいと考えておりますが、これにつきましては、資料 3 で少し説明させていただきます。
- ・ 望月委員と出口委員からは、大手自動車工場の跡地利用の状況についての御意見をいただいております。
- ・ こちらにつきましては、企業側からの情報提供を待つことにはなりますが、絶えず動向を注視するとともに、市としましても Society5.0 時代に対応したまちづくりを進めていく必要があると考えております。
- ・ 3 番目の藤井委員からは4つ御意見をいただいております。1 つ目と 2 つ目は関連がありますが、まず、裾野市の外国人の人口動態や雇用動態を数字で押さえること。そして、多分化共生の文脈から、外国人と一体となったまちづくりについて情報提供してほしいということでした。
- ・ これにつきましては、このあと資料2により外国人の人口データの説明をさせていただきますが、多分化共生につきましては、例えば、保育園等の現場での対応に苦慮することがあるといった状況はありますが、庁内でもまだ具体的な議論が進んでいないところですので、計画策定の過程の中で、議論を重ねていきたいと考えております。
- ・ 藤井委員の 3 つ目の御意見は、立地適正化計画等、市にとって重要な他の計画と、時間軸を意識し、整合性を図りながら計画策定する必要があるというものでした。
- ・ これにつきましては、このあと、資料 3 の「デジタル裾野研究会」の取組を御紹介する際に、併せて御説明します。
- ・ 最後の 4 つ目の御意見は、今後 10 年間でどこに注力していくのかといったものでした。
- ・ これにつきましては、資料 4 の基本構想骨子のところで御説明させていただきます。

- ・ 山本委員からは4番に記載の2つの御意見をいただいております。
- ・ 1つ目が、多様な生き方を尊重しなくてはいけないという今の世の中の大前提を認識した上で、市の方向性を考える必要があること。2つ目が、教育の在り方が大きく変化する中で、子どもたちをどういう大人に育てたいのかということに関して、裾野市の独自性が計画の中に現れてほしいという御意見でした。
- ・ これにつきましては、市としましては、人々の多様な価値観やライフスタイルを尊重し、市民が幸せを実感できるようなまちづくりにつなげていきたいということ。それから、先行きが不透明な時代だからこそ、子どもたちが大人になったときに、遅く、自らの道を切り開いていけるような「生きる力」を養うためには何が必要なのか、そういったことを考え議論しながら、計画策定してまいりたいと考えております。
- ・ 以上が、資料1の説明になります。
- ・ 続きまして、資料2の説明をさせていただきます。
- ・ 先ほど資料1で御説明した藤井委員からの御意見に対して、裾野市の外国人の人口データを国勢調査の結果を基にまとめたものになります。
- ・ まず、1つ目のグラフですが、こちらは平成12年から平成27年までの市内の外国人の人口を表したものになります。
- ・ 折れ線グラフが、男女合計の人口を表しており、棒グラフが男性女性それぞれの人口を表しています。
- ・ 平成27年の市内の外国人は588人となっております、これは裾野市の総人口の約1.1%という割合になっています。
- ・ 男女の割合については男性の方が少し多いものの、平成27年で男性299人、女性289人と、ほとんど変わらないような状況となっております。
- ・ 2つ目のグラフは、平成27年の外国人の人口を国籍別に表したものになります。
- ・ こちらを見てお分かりのとおり、裾野市においては、中国人とフィリピン人で全体の5割近くを占めており、そこにブラジル人を合わせると、これら3つの国で全体の7割近くを占めていることが分かります。
- ・ 資料の裏面を御覧ください。3つ目のグラフは、国籍別の人口の変動を折れ線グラフで表しています。
- ・ こちらを見ていただくと、平成17年以降、ブラジル人とペルー人の人口が同じような形で減少している一方、中国人は年々増加傾向にあります。また、フィリピン人は平成22年に増加しておりますが、平成27年では少し減少していることが分かります。
- ・ 最後の4つ目のグラフはフィリピン人にフォーカスしたものになります。
- ・ 他の国籍の人口は男女の割合がほとんど変わらないのですが、フィリピンだけは、女性の数が圧倒的に多いことが分かります。特に、平成27年はその開きが顕著な状況となっております。これは市内にある矢崎総業での雇用状況によるものと推察されます。
- ・ 資料2についての説明は以上となります。
- ・ 続きまして資料3の説明をさせていただきます。
- ・ スクリーンが見えにくい場合はお手元の資料3を御覧ください。
- ・ ここからは、先ほど資料1で御説明した、西野委員のEBPMに関する御意見と、藤井委

員の、立地適正化計画との整合性に関する御意見に関連するところとしまして、本市におけるデータ利活用の取組みについて御説明します。

- ・ デジタル裾野研究会の概要を御説明する前に、昨年度から裾野市が積極的に進めているデータ利活用の取組みについて御紹介します。
- ・ 推進体制構築、データ利活用型人材養成、実際の政策立案の順にお話しします。
- ・ まずは推進体制の構築です。
- ・ 近年、国においては EBPM の推進、いわゆる根拠に基づいた政策の立案の重要性や、AI、ICT の積極的な導入が盛んに議論されています。
- ・ 裾野市においても、庁内にデータ利活用推進本部を設置し、推進計画を策定した上で、Code for Japan や Code for ふじのくにと連携しながら、データや ICT の利活用について、取組みを進めている所です。
- ・ また、今年の7月には、東京大学生産技術研究所と、まちづくりにデータを利活用する取組みを進めるため、デジタル裾野の推進に関する連携協定を締結しております。
- ・ このように、本市は昨年度宣言した、データ利活用推進シティ宣言のもとに、全庁挙げて、覚悟を持ってデータ利活用に取り組んでいるところです。
- ・ 次に、人材養成について御紹介します。
- ・ EBPM を実践できる職員の養成ということで、Code for Japan の協力を得ながら、職員向けの研修を行っております。
- ・ 研修受講者のモチベーションやステータスの向上、庁内でのデータ利活用の推進を加速化させることを目的として、人材の認定制度も構築しております。
- ・ EBPM を実践できる人材である、エキスパートの養成に力を入れておりまして、これまで 42 名を認定しました。
- ・ 市民向けに、セミナーなども行っています。東京大学の奥村先生をお招きし、地域課題に対するオープンガバナンスについて御講演いただいたり、Code for Japan からはデータ利活用の最新動向を御講演いただくなど、地域課題に対してのデータ利活用について、啓発活動も進めております。
- ・ 次は、実際の政策立案です。
- ・ こちらは、データアカデミー研修から生まれた事例で、市民課窓口によく寄せられる質問を LINE Bot を活用して、自動で回答できる仕組みを構築したものです。質問項目は、市民の方と一緒に洗出しを行いました。
- ・ 市民にとっては、24 時間、どこからでも気兼ねなく問い合わせできることによって、市民サービス向上や職員の応答時間の削減を期待しています。
- ・ LINE 上で、裾野市役所案内サービスとして、4 月 1 日から実証実験を行っております。
- ・ 今後は、EBPM を実践できる人材を養成しながら、データや ICT を利活用した事例の創出に注力できればと考えております。
- ・ 人口減少、少子高齢化、財政状況のひっばくといった、今後の当市の見通しがある中で、行政だけでは、まちづくりの全てを担うことは不可能です。これからの行政には、市民や企業の皆さまがやりたいと思うことを支える、いわばプラットフォーム的な役割が求められてくると思っています。

- ・ その手段が、データや ICT の利活用です。
- ・ 市民や事業者と一丸となり、データによってまちづくりを動かす最新事例を創出している、市民にとって効率的で最大限の効果を提供できるまちを目指していきたいと考えております。
- ・ 今月には、データ、デジタルを活用したスマート市役所を目指すため、データ利活用推進本部の中に、新たに「スマート市役所推進部会」を発足させました。
- ・ これにより、実業務への ICT 等のデジタル技術の実装を推進するとともに、デジタル技術の実装に不可欠な、業務自体のデジタル化を進めてまいります。
- ・ ここからがデジタル裾野研究会の概要になります。今年の 7 月に立ち上げたデジタル裾野研究会では、建物のポリゴンデータや人流データ、企業取引データ等のコアデータやシステムを東大から提供してもらい、それらデータを利活用した都市運営の事例を作ることを目的としております。
- ・ 東大のほかにも、市内の関係団体や企業にも御参加いただき、これまで 2 回開催したところ です。
- ・ 今月 16 日に開催した第 2 回研究会では、こちらの 5 つのワーキンググループごとに課題解決に向けた取組を進めていくためのディスカッションを行いました。
- ・ 研究会は年 4 回開催を予定しており、次年度には、データを使った都市運営に関する社会実験を行う予定です。
- ・ ここからは各部会ごとの簡単な概要でございます。
- ・ ファシリティマネジメント部会というのは、市が持っております施設等の運営に関する部会でございます。いろいろな問題があるものですから、どういうふうにそれを解決していくのかということを検討する部会となっております。
- ・ 次は公共交通部会ということで、バス等の利用者が少ないということで、これからどうしていったら良いかというような問題を検討する部会となっております。
- ・ 立地適正化部会ということで、駅周辺の拠点性の向上ということで、どのようにしていったら良いかを検討する部会となっております。
- ・ こちらは産業・観光部会です。今ある地域資源をどのように活用していったら良いかということ課題として検討する部会となっております。
- ・ こちらは道路部会になります。道路を維持管理していくのは市の大きな課題となっておりますので、どのようにしていったら良いかということで検討していく部会になります。
- ・ 以上で、資料 3 の説明を終わります。

(八木会長)

- ・ ありがとうございます。議事(1)の説明が終わりました。
- ・ 本件について、御意見や質問等がありましたら挙手をお願いします。

(西野委員)

- ・ データ利活用推進シティについて意見を申し上げたいと思います。
- ・ こういった形で、勘と経験に頼る行政から、きちんとしたデータを把握して、それに基づく解決策を模索していくというのは、自治体にとっても大変重要なことございまして、そういう意味では非常に前向きな取組だと理解しております。

- ・ただ、前回の審議会でもちょっと申し上げましたけれども、注意をしていただきたいのは、歴史的な経緯を見ると気を付けなければならない点があるということです。
- ・1960年代はPPBSという、当時のアメリカで進んだ予算と計画の新しい手法を入れたんですが失敗したと。
- ・それから、90年代はニュー・パブリック・マネジメントということで、事業評価を様式化して評価表を作って行ったんですが、現在では各自治体のほとんどが捨て始めていると。
- ・それから、皆さんも御記憶に新しい事業仕分けですね。蓮舫議員の。
- ・今回、地方創生でRESASという良い制度ができたなと思っておりますが、ただ、注意しなければならないのは、こうした歴史的な経緯の中で、こういう取組はややもすると、地方はやや遅れていて、国から上から目線で推し進められるようなきらいがなかったわけではございません。だから現場では浸透しなかった。コストばかり掛かって終わってしまったという事例がございますので、そういう轍を踏まないような形で、進めていっていただきたいというふうに思います。
- ・市町は現場でございます。行政の最先端でございます。ですから、まず課題を発見し、その因果関係を、原因が何かということをしっかりデータで把握し、対策を講じる必要があります。
- ・ですから、データを色々いじくって、そこから解決策を講じるものではないと。やはり、現場力と言いますか、自治体職員の現場力や洞察力も含めて、そこを養わないとデータだけに捉われてしまうと、現実と乖離してしまうことが非常に強いです。
- ・ですから、是非、自治体として進めるのは、自立の発想で、この裾野から変えるんだということで、他力で色んな外部に従って動くだけでなく、使いこなして、そこで新しいモデルを作るぐらいの気構えで進めていただきたいと。
- ・そういうのは、おそらく素晴らしい行政になっていくと思います。やや老婆心的な形で長くなりましたけど、是非、お願いでございます。以上です。

(八木会長)

- ・ありがとうございました。他にございましたら挙手をお願いします。

(藤井委員)

- ・藤井です。今、お話を伺っていて、デジタル裾野研究会と称するものが、具体的にどういう組織形態なのかということがよく分からない。と言いますのは、スマート市役所推進部会といったところで、データ利活用推進本部ができて、そのあと市役所の推進部会という形に下りて、あと担当課と。そして、そのあと次のパワーポイントでデジタル裾野研究会として各ワーキングでやりますといった形になってきていると。そのあとを読むと、組織的に見たときに、デジタル裾野研究会というものがどういう形で位置付けられているのかといったところが私には繋がって見られなかったもので、そこを教えていただきたいというのが1つと、それから1つのワーキンググループの中で設定をしたということで、今回のテーマについて検討されたんですが、現状、課題、目標設定といった中で、ワーキングを開いた中で、どういうデータに基づいてこういったものが議論されたのか。確かに、数字で何割とかは出てきているんですが、例えばそれがどういう時期の年次のものを見たのか。現状を比較して見たのか。あるいは将来のことを考えるものとしてデータを見たのか。そ

の時のデータ提供される仕組みといったものが、今回、外部からの提供といったこともあるということですが、そういう判断材料を取捨選択する仕組みといったところを少し教えていただくとありがたいなと思います。

(八木会長)

- ・ ありがとうございます。それでは、2個のお話がありましたので、事務局の方で対応できればよろしくをお願いします。

(事務局)

- ・ まず、デジタル裾野研究会とデータ利活用推進本部との組織の在り方という御質問につきましては、データ利活用推進本部というのは、庁内のデジタル活用を目指した体制作りと言いますか、庁内をそれに向けて底上げしていくという、そういうような位置づけと考えていただきたいと思います。
- ・ もう一つのデジタル裾野研究会の方は、困りごとに対して外部にデータをもらいに行くという発想のもとに動いておるものになります。
- ・ 具体的にスマート市役所推進部会というのは、既に近隣ではロボティックの技術を導入して、AIなどを使って色んな事務をさせていこうとか、そういうものの導入を図れるような形に事務を進めていきたいというふうなことで、検討を進める部会というふうに考えております。
- ・ デジタル裾野研究会は、ここで課題を設定しましたが、それに対して外部ではどういうデータがあるのかといった、そういうデータを取りにいくと言いますか、そういう知恵を借りて来るというような位置づけでやっております。
- ・ それから、デジタル裾野での各部会の検討の内容なんですけれども、今回は部会の課題がそもそも妥当な課題なのかどうかという部分を検討していただいた状況になります。そもそもこういう課題の立て方がおかしいのではないのかとか、そういうようなことをまずは検討していただいたということになります。
- ・ ですから、具体的なデータを使って検討する前の課題設定が妥当かどうかという、そういう部分の検討をしたということになります。
- ・ 具体的なデータの活用については、次回以降というふうに考えております。以上です。

(八木会長)

- ・ ありがとうございます。藤井委員、よろしいでしょうか。

(藤井委員)

- ・ 結局のところと言いますか、よく分からなかったんですね。研究会がどう位置付けられているのかが分からないですね。
- ・ 例えば、スマート部会の企画政策課が窓口となって担当課といったものがあると。そして、その担当課の流れの中で、主体となるワーキングという形に展開して設定されているのかと。
- ・ 今の説明だと、その前のパワーポイントのところ、裾野市データ利活用推進本部が目指すこれからの課題解決のカタチというページのところだと、外部のところから実証フィールドといった外部専門団体のところからの刺激といったところが、市役所が入る、市民の声や、企業、団体にぶら下がり、オープンガバナンスとしてやる仕組みと。この仕組みの

中の一部が研究会として組織化されたものなのか、その辺の位置づけがよく分からないということだったんですけれども。

- ・ もしも、私が言っていること自体がおかしいのかもしれませんが、時間が限られていますので、後で教えていただければと思います。

(西川企画部長)

- ・ 今の藤井委員が仰ったように、デジタル研究会自体は、これからの課題解決のカタチを作る一つの手法として、色んな形でデータを使えるんだよというところを実際に経験をするという場を設けなければ、当然、データを扱う職員もデータを扱いきれない。結局は課題解決に繋がらないというような位置づけで、そういった部分を補完する形で研究会というものが成り立っていると考えていただければと思います。
- ・ スマート市役所推進部会の方につきましては、データ利活用をする中で、スマート市役所という一つの方向性を目指すための推進部会というふうに考えていただければと思います。
- ・ データ利活用推進計画の中では、体制づくりや人材育成と並行して、データをいかに使っていくのか。データを使ってどういう方向性で、事務改善とか施策展開するのかという2つの柱を持っておりますので、データ利活用推進計画の中のもう一つの柱ですね、実際に結果を出していく、実証していく、というのがデジタル裾野研究会の一つの役割と考えています。よろしいでしょうか。

(西野委員)

- ・ しつこいようですが、今までの中で大事なものは、市町もデータを作っているんです。水道の統計をいじってしまったたり、変えちゃうという自治体もありました。そういう基本的なデータを変にいじったり、捏造したり、加工しないというのは、最低限の行政の責務です。これは公務員の矜持と言いますか、絶対に守らなければいけないものです。それが国では今、本当におかしくなっていますね。
- ・ ですから、まずはそこをきちっと、自治体として正確なデータというものをきっちり出すということですね。
- ・ 2つ目には、データの作り方までしっかり押さえないと、数字をそのまま鵜呑みにしてしまうのは危ないです。
- ・ データの作り方まで遡って確認しないと、間違っただけのものになりやすいです。
- ・ 「データは嘘を付く」というのは、統計は嘘を付くという本がたくさん出ておりますけれど、そういうような懸念も識者の中にはありますので、まずはそういうものをしっかり読み込む、解析するといった目を持つことが大事であります。
- ・ ですから、データ・ドリブンのような形には是非ならないでいただきたい。
- ・ 自治体の責務というのは、もっと地味でベーシックなものがすごくあるということで、職員の皆さんもそこから築き上げていっていただきたいと思います。
- ・ そして、その次にこういうような形で ICT をきちっと使ったスマートな自治体を作っていくということを進めて行っていただくのが良いと思います。これは切なる願いです。以上です。

(山本委員)

- ・ 日々、統計自体も変わってきていて、今、仰られたように分析の結果自体も何を目指して

データを扱うかというところの大元が、今、御説明いただいたところだと分からなくて、デジタル化を進めるという話とデータを使ってエビデンスを作るという話、エビデンスに基づく市政を行っていくということが、何となく全然違う内容を指しているように私には聞こえました。

- ・ それで、もう一つデータを扱うと言った時に、西野委員も藤井委員も同じことを仰ってたと思うんですけど、分析のために使うのか、予測のために使うのかというのは全然違うんですね。統計の手法上も全然違いますし。
- ・ 何を指してこれだけ大きなプロジェクトにして、色んな分科会もやってといった時に、データを利活用するというのが、研究会の成果としてもそうなんですけど、分析して分かったことをどこの場でどういうふうに反映していくのかとか、あるいは、そこで得られた結果が何のために使われるのかというところとかをチェックする機能は絶対に必要だと思うんですね。
- ・ 例えば、大学だと研究倫理に関わるようなところの審査がすごい厳しくてあるんですけど、データをただ単に使いましたよというだけだと、今、西野先生が危惧されているようなことというのは、簡単に起こり得るんです。数字なので。
- ・ ですので、やはりどこか倫理的な基準に基づいて、きちんとデータの活用と言うのであれば、目的との整合性であるとか、データを取り行くという表現で仰られましたけれど、私たちもそうですが、調査のためにデータを取るとなった時には、その目的の妥当性とか客観性の問題というのはすごく議論になるところでもあるんですね。それは研究の領域でもそうなるところなので、逆に言うと、市の行政の方向を目指して行くと、データの取り方が擦り寄って行くという可能性、危険性はすごくあると思うんです。
- ・ ですので、やはりそういうところは何かしらの組織が必要なのではないかなというふうに私は感じました。

(西川企画部長)

- ・ 今、現在、データをいかに使うのか、課題解決のためにどのように使えるのかというスタートの段階になっておるものですから、それを上手く使ってこれから課題解決に繋がると良いねと。そして、そのための人材育成であり、体制整備であり、データの利活用でありということ、今、様々な形でやっている状態ですので、データを使った結果、それをどういうふうに検証するのかとか、その妥当性についてチェックするということまでは、組織としてはまだ成り切れていないというのが正直なところですよ。
- ・ ただ、データで判断するというのはいくつかの手法であって、それだけで決めるのではなくて、色々な判断をする中の一つ材料にしていきたいなと。
- ・ 今までは、「私、30年勤めてきたから次はこうなるんだよ」という一方的な考え方ではなくて、こういうデータがありますよね、こういう考え方がありますよね、じゃあ一歩止まってみて、検討しましょう、考えてみましょうという、一つの材料にしたいなという考えで進めておりますので、これが将来的にはしっかりとした形で体制もできて進めて行ければ宜しいのかなというふうに考えております。

(市川委員)

- ・ 少し分からないので教えてもらっても良いですか。説明された資料としては、表紙がデジ

タル裾野研究会という資料の中にありますので、あくまでもここに書かれている内容は、研究会の中にある。

- ・ 研究会というと、私たちは、施策を行うための研究会という気がしてしまうのですけど、そして、その中でテーマを決めて、ワーキンググループを作ってやるのですけど、市役所が考えるすごく重要なテーマを、現段階で研究会の中で、公共交通部会とか決めてらっしゃいますけど、これはデジタル研究会の枠を作らなくても、重大テーマなのではないかなという感じがするので、位置づけが分かりにくくなっているのかなと思いました。

(西川企画部長)

- ・ この資料自体が分かりにくい構成になってしまっていて申し訳ないと思うのですが、デジタル裾野研究会自体は、本市が目指しているデータ利活用推進のまちづくりの中の一つの取組という形で捉えてください。
- ・ その取組をやっていく中で、データを使って課題解決ができるのであればやっていきたいよねという一つの取組ですね。データ利活用のまちづくりを進める中での一つの取組というような位置づけとなります。
- ・ 今回、東京大学の協力を得まして、公共交通や立地適正化の問題、ファシリティマネジメントの問題等、データを使って解決できるものがあるのではないのかなど。次の方向性が見えて来るかもしれないねということで、この研究会の中で特出しをして、データを活かした取組を進めていると。
- ・ 具体的に結果が政策として反映できれば一番良いのかもしれませんが、それもこの研究会の結果を見てみなければ、施策内に展開できないところが当然出てきますので、そういった一つの手法として我々は考えているというふうに捉えていただくと宜しいかなと思います。
- ・ 本市が目指しているデータ利活用のまちづくりにぶら下がってくる一つの取組として、今これをやってみよう、やってみればこのような結果が出るのではなかろうかというような位置づけで捉えていただければと思います。
- ・ 研究会を使ってデータを取りに行く訳ではございません。データ利活用するためには、オープンデータ化ですとか、データの考え方自体を各職員やデータを取り扱う者がしっかりと理解できなければ、適正なデータ利活用はできませんので、それはそれで別の取組として進めていきたいと考えております。

(八木会長)

- ・ データを使っての問題解決とか、進め方の明確化みたいなものを狙っているんですね。よろしいですかね。その他に、御意見、御質問等あれば。
- ・ それでは、無いようですので、続きまして、議事2番、第5次裾野市総合計画基本構想骨子について、事務局から説明をお願いします。

(2) 第5次裾野市総合計画基本構想骨子について

(事務局)

- ・ 前回以降、庁内関係会議及び市民の参画した策定協議会等を開催し、作業を進めてまいりました。
- ・ 本日は、基本構想のおおまかな骨組みとなる骨子案をお示しできる段階となりましたの

で、委員の皆様のご意見を伺うものです。

- ・ それでは、その骨子案を説明させていただきます。
- ・ お手元の資料 4「基本構想骨子案(Ⅰ. まちづくりの方向性とまちの将来像)」という A3 資料をご覧ください。
- ・ 始めの、「将来を見据えた新たな視点」には、前回、社会経済動向と本市への影響という資料の中で、特徴的な社会情勢として説明をさせていただいた項目 1、2 に加え、地方創生の視点である 3. まちに関わる人づくりが加わっております。
- ・ この右側にいきまして、「協議会からのキーワード」は、市民や各種団体が構成される策定協議会でのワークショップで出された意見をまとめたものとなります。子育てしやすいまち、世代間の交流が盛んなまちなどが、出されています。これらと先ほどの新たな視点から、その方向性をまとめたものが 5 つの「まちづくりの方向性」です。
- ・ まず、「住み続けたいまちづくり」ですが、結婚、出産、子育て等への支援、各種教育の充実、各年代の活躍できる場づくりとともに人が集まり楽しめる場の創出が挙げられています。
- ・ 次の「人や企業を呼び込むまちづくり」では、富士山を始めとする市特有の資源を生かし、関係人口の確保を図り、産業集積による就業の場を生かすことを掲げています。
- ・ 次の「安心・安全なまちづくり」では、自然災害への対応を進め、おいしい水、食の安全、高齢者の移動手段の確保や生活支援など安心して生活できるまちづくりが掲げられています。
- ・ 「協働・連携によるまちづくり」では、地域での支えあい、市民参画による協働、企業など多様な主体との連携を目指しています。
- ・ 最後の「未来技術を生かしたまちづくり」では、労働力人口の減少や高齢化の進展による地域課題の解決、行政サービスの向上、市民満足度を向上させる手段としての未来技術の利用が掲げられています。
- ・ これら方向性から導き出される裾野市の将来都市像として、～未来への挑戦～人と人のつながりを豊かにする富士山の麓の次世代型都市すそのを提案させていただきます。
- ・ 将来像の図の下側にある「裾野市らしさ」と書かれた部分をご覧ください。
- ・ 裾野市では、富士山、豊かな自然・水、田園風景などの地域資源とともに、地域経済をけん引する企業、地域コミュニティのつながり、地域に誇りを持つ市民などの、人及び産業がまちづくりの中心となり裾野市らしさを構成しています。
- ・ これを基に市民、企業の「協働・連携によるまちづくり」や課題解決に未来技術を活用した「未来技術を生かしたまちづくり」を推進します。
- ・ さらに、「安全・安心なまちづくり」で安全・安心を確保するとともに市外から「人や企業を呼び込むまちづくり」を進め、裾野市に「住み続けたいまちづくり」を目指します。
- ・ このような方向性を踏まえ、まちの将来像を設定しました。
- ・ まちの将来像を白丸の文章で説明しています、その一番下の○の部分にもありますように、特に「人」という言葉に焦点を当てています。人と人のつながりを大切に、さらに豊かにすること、同時に新しいことにチャレンジしつづけることにより常に新しい都市を目指すことをイメージしています。

- ・ 裏面をご覧ください。こちらでは、施策の体系を記載しています。
- ・ 枠の囲みの中にもありますように、3つの基本方向と、5つの施策の大綱により計画の実現を目指します。
- ・ 3つの基本方向は、先ほどの「まちの将来像」にありました、住み続けたいまちづくり、人や企業を呼び込むまちづくり、安全・安心なまちづくりで、その施策の大綱は、一つ目が、「みんなが輝く元気な人づくり」で、そこにつながる施策の柱としては、健康づくり、子育て支援などがあります。
- ・ 次の「にぎわいと活力ある産業づくり」には、商工業の振興、活力ある産業基盤づくりなどがあります。
- ・ また、「安全・安心な地域づくり」では、地域医療体制の確保、地域における福祉の推進などが挙げられます。
- ・ 「暮らしや活動を支える基盤づくり」では、裾野市らしいまちづくりの推進、活気に満ちた市街地整備の推進等が、そして、「時代のニーズに応える都市経営」では、広報・広聴の充実、ICTの活用による地域情報化の推進などがあります。
- ・ 右側の表は、現行の第4次の施策の柱が、これから策定の第5次計画で、どこに対応するかを表した表になります。例えば、第4次の「健康づくりの推進」は、第5次の「みんなが輝く元気な人づくり」に位置付けることとなります。同様に、「子育て支援の推進」も「みんなが輝く元気な人づくり」に、次の地域医療体制の確保は、「安全・安心な地域づくり」に位置付けられます。
- ・ この表の次の「施策の推進に欠かせない視点」としましては、市民が起点であるなど、今後の策定に必要な視点をまとめております。
- ・ 以上が基本構想の骨子案の説明となります。

(八木会長)

- ・ ありがとうございます。それでは、今の議事につきまして、御質問等ありましたら挙手にてお願いします。

(山本委員)

- ・ ちょっとお伺いしたいんですけど、今、4次と5次の対応表がありますよね。そうすると、これだけ見ていると要素が全て、カテゴリだけ変更して、移行したというふうには見えなくて、要は削ったところもなければ、増えたところもないというのが、どうなのかというところをお聞きしたいなと思います。

(事務局)

- ・ 仰るとおりでして、4次のものを5次の体系で割り振ったらどのようになるのかといった例示になります。
- ・ 当然、施策の柱については、今後検討していきますので、施策の柱については、新しいものに内容が入り替わって、増えるものもあるでしょうし、無くなるものも場合によってはあるかもしれません。
- ・ ただ、ちょっと漠然としすぎるのかなということで、今の4次の計画を当て嵌めればこういうふうになりますということで、参考例ということで挙げさせていただきましたので、今後、施策の柱については、庁内で検討した上での案を審議会に出させていただきますので、

そういう意味で御理解いただければと思います。説明が足りてなくて申し訳ございませんでした。

(藤井委員)

- ・ 都市の将来像といったところのキーワードになっている「次世代型都市」といったものをどのようにイメージされているのかといったところが、ちょっと私には分からないというのがあります。
- ・ と言いますのは、通常、次世代型都市とかいったものは、カタカナ言葉になってしまいますが、スマートシティとか、そういった形の新たな次の世代のまちといったものをどう考えるのかといったところでは、そういった議論では色々活用されているんですね。
- ・ その時に、裾野が抱えているスマートシティに相当するものが次世代型都市というものなのか、あるいは次世代に繋げるための文化とか歴史とかそういったものを残す都市といった位置づけなのか、それによって方向性が全然変わってくる。
- ・ ただ、未来技術を活かしたまちづくりの視点の中に、これから出てくる最新の技術を活用した都市づくり、まちづくりをしたいというイメージからすると、かなりスマートシティに寄った形の計画なんだろうなということを意見してしまうんですね。
- ・ その時に、それをきちんと評価できるような施策メニューに展開されてくるかということ、どうも ICT や情報関係の推進といったところだけで、今回持っている都市像を作り上げるような方向性といったものが示されていないというのが率直なところですよ。
- ・ 例えば、この総合計画自体が 10 年という形の中で動くとなると、前回の時にもちょっとお話をしたんですが、立地適正化が 20 年とか長いオーダーの計画になっていると。
- ・ 本来は総合計画が市の全体計画として一番の最上位計画のはずのもので、それを受けた形として立地適正化計画であるとか、都市計画マスタープランというものが位置づけられるはずだと、私はそう認識しているんですね。
- ・ ただ、総合計画自体は、自治体によって作っても作らなくても良いという形の位置づけにはなっているんですが、この方向性づくりをするためには、市の計画を推進するためには、持っておいた方が良い計画だろうということで、私もそう思いますので、こういう計画が出るのはとても良いことだと思います。
- ・ ただ、それが先行している計画との繋がりとして、どう位置付けられているのか。関係性が出ていないと、市民はどっちを見てまちが動き出すのかが分からなくなる。
- ・ 例えば、立地適正化計画の場合だと、市街化調整区域に 4 割の方が住まわれているところを集落拠点といった形の中で、コンパクトな集約性を確保すると。
- ・ 本来、国交省で言っている市街化区域の中へとといった形ではなくて、市街化調整区域の中で、且つ、コンパクトにまとまれるまちづくりをしましょうと言っている計画がある中で、この未来技術を活かしたまちづくりの次世代型都市といったものをどう位置付けているのかといった関係性がよく分からない。
- ・ 立地適正化計画の中にも組み込まれなかった新駅構想であるとか、あるいは、前回も出ていた工場跡地といったところ。そういったところをある意味スマートシティといったような種地として考えて今回の総合計画の方向性の計画の位置づけになっているということであれば、それはまた一つの考え方として有りだろうというふうに思うんですが。

- ・ そういった面で色々な話をしたんですが、裾野らしさを持っている未来技術を活用した次世代型都市といったものをどう位置付けられて、具現化するための具体策として、施策をこれから構築されるのか。
- ・ もしもその辺の思いを持たれるのであれば、かなり施策メニューのところをまちづくりに直結できるようなキーワードをかなり入れないと、ちょっと格好がつかないなという気がします。
- ・ というところで、先ほどまだ4次との掛け合わせをしたところなのでというお話でしたので、そこまで十分な議論がなされていないんだらうなというふうに思いますので、次あたりにその辺のところの次世代型都市といったものをどう位置付けて、それを市街化区域、調整区域、あるいは新駅を想定したものを含めてなのか、そういった方向付けの中で総合計画として、位置付ける枠組みをもう少し強く入れていかないと、住み続けたくなるまちづくりが一番上位にあって、次世代の都市につながるというところがどうも理解しにくいというふうに感じますので、コメントはなくても構いません。次に向かっての検討ということで結構ですので、言いたいことだけ言わせていただきました。

(西川企画部長)

- ・ 藤井委員の仰るとおりでございまして、現段階で次世代型の都市をどのように位置づけるかということを明確に表現しきれていないという御意見は他からもいただいておりまして、この部分を計画の中でどういった形で表していくかというのは、今後の施策の柱の中で具体的にお示ししたいなというふうには考えております。
- ・ 当然、皆さんが一番興味を持っていらっしゃる工場跡地の問題とか色々あるんですが、現段階では明確になっていない部分もありまして、この計画の中でどういう形で落とし込んで行くかということについて、今、苦慮しているところがございますので、できれば早いうちにそこら辺を計画の中に落とし込むような形で、皆さんに御提案をしたいなというふうには考えております。以上でございます。

(望月康男委員)

- ・ 今まで専門の先生方のお話を聞いておったんですが、私の年齢でいくと、10年後のことを考えるわけなので、10年先に生きているかどうか分からないんですが、90過ぎちゃいますので。
- ・ そういう思いでちょっと見させていただくと、今、藤井先生が仰ったみたいに、先が読みにくいというか、現状が具には入ってこないの、市民の皆さんが展望を開いていけるかというとなかなか難しい状態にありますね。
- ・ 予算もカットされてというような情報も入って来て侘しい思いがするんですが。
- ・ 立地適正化計画の中で2拠点化を検討していて、裾野駅と岩波駅ということで、もう結論出して検討されてるんですけど、情報としてなかなか出てこないんで、市民としては分からないんですね。
- ・ そういうものがなされていながら、中間の駅の設置促進委員会なんていうものを派手にやっているわけですよ。しかも、行政側がタッチしながらやっている。ちぐはぐなんですよ。
- ・ 2拠点化を決めているにも関わらず、そういうことをやっていて、情報が的確に行ってい

ないのではないかと。

- ・ 広報紙も1ヶ月に2回出ていたものが、今は1回になって。情報がどうも的確に流れていない。
- ・ ですから、ここの場合は将来の計画について専門的な人が集まってやるので良いんですけど、一般の人がどういうふうを考えているのか。10年先にどういう展望を持っているのかということはある程度、市民ファーストといって、ここにも書いてありますけど、市民起点だとか市民志向に従ってとかあるけれど、そうではなくてやはり行政や専門の方がある程度「こうしたい」というのを出さないと、なかなかプリントをもらっても議論をしにくいなと思ってます。
- ・ コメントはいりません。言いたいことだけ言わせていただきました。

(出口委員)

- ・ 私も裾野に半年、銀行の支店長としていましてちょっと感じますのは、よく中小企業の経営者や個人のお客さんとお話するんですが、裾野市民の御意見として、非常に閉塞感があると云いますか、将来の先行きに非常に不安を感じている方が多いと思います。そういうふうな印象を当初持ちました。
- ・ そういう中で基本構想骨子案を拝見したんですが、言葉の端々にチャレンジということが書いてあって、非常に良いんじゃないかなと思います。
- ・ あとは市民の方々の御意見を聞いていますと、まちを盛り上げていきたいという人が多いのは認識しているんですが、現状はなかなかそうもいかないという中で、総合計画の策定の中で市民がワクワクするようなものとか、何かにチャレンジするとか、そういったものを是非色々盛り込んでいただきたいというふうに思いました。
- ・ これから骨子からまた内部の方に進んでいくことになると思うんですけど、市民に御理解をいただけるような策定を是非お願いしたいというふうに感じました。

(八木会長)

- ・ ありがとうございます。市民がワクワク、チャレンジすることについて、行政はそれを念頭に置いて施策を展開していただければと思います。よろしくお願いします。その他にございますか。

(市川委員)

- ・ 1点ですけど、今、骨子のところに、持続可能な社会を目指してというところにSDGsが載っていますけど、ここのところを詳しく載せるというのはなかなか難しいと思うんですけど、国連でも講演しましたスウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんという16歳の女の子が気候変動について非常に危惧しています。
- ・ これは全世界の人に響いた言葉なので、その辺がちよっと書き込まれるような事業推進がどこかにあると良いかなというふうに感じますので、その辺を是非よろしくお願いします。

(一之瀬委員)

- ・ 大した話ではないですが、今、皆さんの意見を聞いていて、私も自分なりに前の資料を、計画が立ち上がってくる前の議事録とかを色々読ませていただいた中で、前回、田園未来都市ということが大前提にあって、次は次世代型都市ということで、なかなか10年で

は達成できないから、その時に考えた未来都市を次の10年にも、何かしら少しでも実現できればという思いがここにはあるのかなという思いで私は読ませていただきました。

- ・ ただ、今回、一番当初にありました市議会議員の皆さんから出ていた意見をこういうふう
に反映していきますよということが市役所の方でまとめてあって、藤井先生の意見ですと
か、山本先生の意見ですとか、皆さん仰るように、少し市民・住民に期待と言いますか、
分かりやすいような、大まかにくるんだものではなくて、少し目鼻立ちがはっきりしてくるよ
うなものを活字にしていただけるとそれに向かって市は努力してるんだな、それが逆に
10年では達成が難しい、目指すんだけどもそれに向けた努力はされているというよう
な評価が最後の10年に出てくれば良いのかなと思います。
- ・ そのような形で、田園未来都市という、前回、4次の計画を作る上で、どういうふうなこと
が話されたのかなということ、自分なりにホームページに出ているものを見させていた
だいたんですが、せっかく色々な方が英知を絞って作った計画ですし、またこれから5次
に向かってやる計画ですので、そういった形で市民に期待を持たれるような計画を作っ
ていただけるとありがたいと私は思いました。

(八木会長)

- ・ ありがとうございます。市民の皆さんに分かりやすくということですね。

(山本委員)

- ・ 先ほど望月委員が仰ったことを聞いていてちょっと思ったんですけど、次世代型都市とい
うのは怖い面があって、裾野市だけではないですけど、これだけ高齢者比率が上がって
いる中で、特にデジタル化とか、そういうものを進めて行くとなると、必ず情報弱者が生ま
れるんですね。取り残される人たちをどういうふうにフォローしていくのか。生涯学習の充
実というところがありますけど、それに乗ってこれない人たちもいるわけで、そこをどうい
うふうにフォローしていくのか。その辺も是非、政策の中に、具体的な中に、単純な福祉
という話ではなくて、生きてい行く上で不便を感じる次世代になってしまったら、不便を感
じる人はかなりの割合でいるので、そのところをどういうふうにしていくのかというのは
考えなきゃいけないのかなと思います。
- ・ 理想的なことで、先ほど出口委員も「チャレンジという言葉は良いんじゃないか」と言いま
したけど、それはチャレンジできる世代にとってはもちろん、そこはある意味、お尻を叩い
ていかなければいけないところだとは思いますが、その部分もバランスを取っていかに
ないといけないのではないかなと、ちょっと感じました。

(西川企画部長)

- ・ 次世代型という言葉には色々な感じ方があると思います。確かに、新しい技術ですとか、
新しい文化に向かって行く、そういう都市もあるんですけど、一方、少子高齢化が進みま
して、人口減少のまちになっていきますと、今のまちの大きさ、スケールをそのまま維持
することができませんので、当然、コンパクトなまちにしていかなければならない。
- ・ 今は52,000人の規模を維持する行政ですけど、もしかすると、そんな大きな教室はい
らないだろうと。そうしたプラスマイナスの部分を含めて、次世代型というのは今後考え
ていかなければいけないのかなというふうに思います。
- ・ 先ほど一之瀬委員からありましたように、できれば市民の皆さんが分かりやすい表現を

して、総合計画として波及はしたいんですけど、あまり細かくなりすぎちゃいますと、総合計画とは言えない部分も出てきますので、そこら辺は検討させていただきたいなど。

- ・ あと、市川委員からありました SDGs の関係なんですけど、当然、意識しながら作りたいと思います。可能な限り、計画の中で謳われた方向性ですとか、施策に SDGs の個々の 17 の目標がありますよね。それがどこに紐づいてくるのかという部分は、是非、表記をして、市民の皆さんにも考え方を分かっていたいただけるような計画作りをしていきたいというふうに考えています。

(藤井委員)

- ・ 今、事務局から話のあった「コンパクト」というところの中で、人口減少になってコンパクト化をしなければいけないとなると、イメージとして、人口が減るから、都市も小さくなるとイメージすると現状と合わなくなる。
- ・ 基本的には、都市計画的に言うところ「スポンジ化」というキーワードがあって、色んな所に少しずつ空白が、穴が空いてくるよと。
- ・ 人口が滲み出すような形で、ジワジワいなくなっていってしまう。でも、決して都市形態としてはコンパクトの集約性がなかなかいかない。そういった時に 10 年、20 年の人口減少に耐える、住み続けたいまちにするための、ある意味、空いたところをどういう施策の形として組み込んでいくのかというのが、立地適正化計画の中で具体的な記載事項として入っているはずなので、そういった面では、総合計画における人口減少というキーワードがあるんだとしたら、どういう住まい方、暮らし方をするかといったところ、そういった時に極端な話を言うと、高齢者施設等は市街化調整区域に作った方が、ある意味、広く、安くできる。そうやって来ると、集約化と逆行する方向性で建物作りがなされてしまう。
- ・ そうやって来ると、住み続けたいまちというキーワードを第一の柱として据えるのであれば、そういったまちの配置とか、これから進んでくる少子高齢化に向けたスポンジのような、抜けて行く空間をどう都市的に考えるかみたいな視点を是非検討の中に、住み続けたいまちの中に具体的なイメージとして検討事項が入っていくとありがたいと思います。これは意見です。

(西野委員)

- ・ 資料の左側の新しい視点はかなり網羅されていて、充実しているように思います。
- ・ 1 点だけ、産業のところの、人や企業を呼び込むまちづくりというキャッチフレーズが他力本願に見えちゃうところがありますので、人口減少問題で、若い人が、特に静岡県内は他の地域に出て行ってしまっていて戻ってこない。
- ・ 企業も事業所数が激減しているということで、今、この 2 つが一番大きなポイントですので、呼び込むということも当然大事なんですけど、自ら創る、人をつくるということは不可欠なわけです。
- ・ それから、既存の企業を出て行かないような形で、より地域密着型のビジネスがしやすい環境づくりだとか、そういう繋がりを深めていって、単なる事業所だけではなくて、R&D というような機能を果たしていく、そういう、よりポジティブな自力で創るというようなニュアンスで、企業を育み、呼び込むというようなものを一つ入れていただけるとありがたいと思います。以上です。

(小川委員)

- ・ 2点ありまして、一つは質問なんですが、ここに書かれていることはどれも正しいことが書かれていると思うんですが、一市民の感覚として、衣食住の基本的な機能として、どこに力を入れようとしているのかをまずお聞きしたいと思います。
- ・ 自分の感覚としては、まず、住むところがなかなか見つけにくい。それから、食べることに關しても、もっと充実したい。「衣」というのは買い物という意味でも、やはりもっと充実した方向を目指したいというのが実感なので、それでどこを目指して行くのかというお考えをお聞きしたいと思います。
- ・ それから、2点目は先ほどから盛んに出ている未来技術とかというところもありますけれど、人口がだんだん減っていくという中で、おそらく自立して維持できる地域と、何らかの対策を投入しないと維持できない地域と、対策・予算を入れても維持できなくなってくる地域と30年、50年というサイクルでは出てくると思うのですが、その二極化という意味で言うと、方向としてはその二極の部分に集約していくというお考えなのかという、その2点をお聞かせください。

(八木会長)

- ・ 事務局で回答できれば、できる範囲でお願いします。

(西川企画部長)

- ・ では、衣食住の関係でございますけど、衣食住それぞれの環境を変えて行くこれからの計画を立てるということになりますと、総合計画のレベルよりももう一つ落とし形、個別の計画の中で具体的に考えていきたいというふうに考えております。
- ・ 当然、その具体的な計画に紐づく形での指針というものを、この総合計画で示すことが必要なかなと思います。
- ・ 2点目なんですけど、もう一度お願いします。ちょっと分からなかったんですけど。

(小川委員)

- ・ 具体的に言うと、岩波駅、裾野駅に集約していくというお考えがありますよね。ということは、反対にそこからすごく遠いところは、自立して維持できなければ、すごく長期的な視点で見ていくと、自立して維持できなければ撤退していくというような方向で考えていくというお考えなのか、というところをお聞かせいただきたいと思います。

(西川企画部長)

- ・ 例えば、早く結果を出したいですとか、企業さんですと儲けたいということを考えれば、どちらかにシフトするのが大事かもしれませんが、当市の状況を考えますと、調整区域の中にも多くの方々が住んでいますので、当然、調整区域での生活の維持、それから市の中心部での活性化というものを並行してやっていかなければいけないのかなというふうに感じております。
- ・ それが実際、どのような形で実現できるのかという部分については、具体的には今、申し上げられませんが、市の姿勢とすると市域全体を考えながらの市の発展を目指していきたいというのが、非常に大雑把な回答で申し訳ないですけど、そういう方向性で考えております。

(小川委員)

- ・ ありがとうございます。もちろん、それぞれ自分の生まれ育ったところで、より長く暮らしたいという方はたくさんいらっしゃいますし、私もそう思いますので、そこに今までであれば先ほど言ったような考えで、ある限界を超えると地域として維持できなくなるというところを、将来のこれから出てくる知恵や技術で、今まで維持できなかったところも維持できるようにになるとか、そういう方向は当然考えていくと良いんだろうなと思っています。

(八木会長)

- ・ その他は、そろそろよろしいでしょうか。出尽くしていると思いますけど。
- ・ それでは、意見も無しということでございますので、この議事はこれにて終了いたします。
- ・ 今日の議事はすべて終了しましたので、あとは事務局の方でよろしくお願い致します。

○ その他

(事務局)

- ・ それでは、次第の 4、その他といたしまして、委員の皆様から何かございますでしょうか。

(藤井委員)

- ・ ちょっとよろしいですか。特に今すぐどうこうという話ではないですが、今、私、総合計画で千葉県の我孫子市といったところの委員をしています。前にお話したたかもしれないですが、大体 2 時間半から 3 時間ぐらい議論する総合計画です。
- ・ 先ほど若い人たちがワクワク、チャレンジ、あるいはチャレンジできるというキーワードが言われてたんですが、我孫子市では中学生が市長懇談会といったところで、市長と共に市を考えるということを毎月のようにテーマを設けて、集まってきた子どもたち、中学生から高校生を経て、今年、総合計画の委員として 3 名入っています。
- ・ 今、この場で見ると私も平均年齢を上げている立場なんですけど、若い子たちが入ることによって、言葉が分からないということも是正されますし、あるいは若い人たちが将来を担うために、どんなことを実際考えているのか。
- ・ 裾野市でも高校生とかにヒアリングだとか、懇談会のようなものを開催したりとかあると思うんですが、委員として責任を持って、自分が声を発するととても良いことで、そういった面では、地元愛着といったキーワードもあれば、将来の担い手というキーワードもあるし、あるいは若い子たちが何を考えているのか。
- ・ 私たちもあと 10 年、20 年したらリタイアする立場でいますけど、そういった中でこれから将来を背負う人たちが計画に興味を持つ、そういった人たちが声を広げてくれるというのが、今、我孫子市ではとても良い形で動いています。
- ・ ですので、この会議ですぐそれをしろという話ではなくて、そういった声を聞く、あるいは反映させる仕組みなんかも、何ができるか分かりませんが、一朝一夕で来年できるという話ではないので、そういった面を少しずつ、裾野流の若い人たちの思いを計画に入れ込む考え方を一度検討していただくと良いかなということで、発言させていただきました。

(事務局)

- ・ ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

(小川委員)

- ・ データ利活用のところに関して、後からで申し訳ないんですけど、伺っていて思ったのは、具体的な話をもう少しの方が良いのかなという印象を持ちました。
- ・ おそらく、うまくいっている好事例とかの情報をお持ちなんじゃないかなと思いますので、うまくいってそうなものを同じようにやってみるとか、それを転用するとか、具体的にこういう課題はデータ利活用で進むよねといったところから広げて行く、反対の方からも少し考えていったらいかがかなと思いました。以上です。

(事務局)

- ・ ありがとうございます。他にございますでしょうか。
- ・ それでは、本日、委員の皆様からいただいた御意見につきましては、今後の計画策定に活かしてまいります。
- ・ この後の今後のスケジュールについて、事務局からお知らせします。
- ・ お手元の参考資料「計画策定スケジュール」を御覧ください。表の真ん中の少し下に審議会の予定を記載しております。
- ・ 次回の審議会は、あらかじめ皆様に日程調整させていただいておりますとおり、来年1月10日に開催します。ここで、基本構想素案の本文や、基本計画で掲げる新たな成果指標の設定等について御審議いただく予定です。
- ・ そして、先日、皆様にお知らせしたとおり、3月17日に第4回目の審議회를予定しております。ここでは、3月末頃から予定するパブリックコメントの案について御審議いただく予定です。
- ・ 次年度の予定につきましては、パブリックコメントを反映した計画案について、5月下旬頃に御審議いただき、6月末頃～7月初旬頃に答申をいただく予定となっております。
- ・ また、国土利用計画についても御審議いただくことになっておりますので、次年度に総合計画と並行しながらそちらの御審議もお願いしたいと考えております。
- ・ 次年度の予定につきましては、別途、日程調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(西川企画部長)

- ・ くだいんですけど、資料 No.3 をもう一度御覧ください。どうしてもデジタル裾野研究会とデータ利活用の関係が見えてこないという話だったんですが、この資料 No.3 の1ページのデジタル裾野研究会概要、ここが無いものだというふうに思っていただければ、分かりやすいと思います。
- ・ データ利活用をやっていますよという2ページ目からの取組の中として、デジタル裾野研究会があるんだという見方をしていただくと、御理解いただけるのかなというふうに思います。

(事務局)

- ・ すいません、最後に担当の方からも今のところに補足をさせていただきます。
- ・ 資料の作りが分かりづらくて申し訳なかったです。
- ・ こちらの意図としましては、裾野市で昨年度から積極的にデータ利活用の取組をやっているということを皆さんに知っていただきたいというのが1点あったのと、あと、前回の審議会で藤井委員の方から、立地適正化計画と総合計画との関係について、時間軸を意

識しながら整合性を取らなければ駄目だという意見があったものですから、それについて、ちょうどデジタル裾野研究会の方で5つのワーキンググループがある中で、立地適正化部会というものが立ち上がったものですから、そのところで、これからどういうふうに立地適正化計画に基づいて施設の誘導とか配置等も含めて、人の動きも含めてですけど、やっていくかということを考えていく時に、総合計画も10年で、例えば、裾野駅の区画整理事業も10年後に完成予定という形のものがあったりしますので、じゃあ10年後の姿はここだと、その5年前ではどうなのかということも含めて、立地適正化部会で議論を重ねる中で、時間軸を意識したものとして、総合計画にも反映させていきたいというようなところで、資料3を前回の審議会の意見対応の補足として、出させていただいたということが意図としてありました。

○ 閉会

(事務局)

- ・ 以上で、本日の会議日程をすべて終了しました。
- ・ これをもちまして、第2回裾野市総合計画審議会を終了いたします。委員の皆様、御協力、ありがとうございました。

(以上)